



## 火薬類保安技術実験@矢臼別演習場

大規模な火薬の安全性実験に研究室として参加

2018年10月4日から14日にかけて、陸上自衛隊矢臼別演習場で、「平成30年度火薬類保安技術実験」(本実験)が、一般社団法人・全国火薬類保安協会(全火協)の主催で実施されました。この実験では、国立研究開発法人・産業技術総合研究所安全科学研究部門(産総研)が実施主体として参加しており、当研究室の大学院生も一員として参加しました。また、水書稔治教授は、本実験の技術的妥当性を検討する検討委員会の一員であるため、指導団の一員として参加しました。本実験は、全火協、産総研、火薬メーカ、火薬研究者、および陸上自衛隊の支援を受け、総勢300名

規模で実施された国内では例を見ない火薬を用いた大規模な実験です。

本実験では、経済産業省が検討している地中式火薬庫に対する保安距離(安全を担保するため、火薬庫から住居などまでの最低限保つべき距離)の改正に寄与するため、1/10に縮尺した地中式火薬庫に5kgの火薬を装填して爆発させ、周囲への影響について、爆風による圧力および振動を最新の計測機器で計測しました。

当研究室では、大規模な野外実験に参加し、研究はもとより大規模な組織的な実験を学生に経験させ、視野を広げさせています。